

例 言

- 1 独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所と大韓民国国立文化財研究所は、2016年4月1日に、「日韓古代文化の形成と発展過程に関する共同研究」という題名で、日韓共同研究合意書を取り交わした。本書は、2020年度までの共同研究の成果を論文集として取りまとめたものである。
- 2 本共同研究では以下の5項目をあげ、本書にはこの課題に則した論考12篇を収録した。
 - (1) 日韓都城制の比較研究
 - (2) 都城・寺院・墳墓・生産遺跡等に関する遺構・遺物の研究
 - (3) 古建築技法に関する復原的研究
 - (4) 遺跡の整備・復元手法に関する研究
 - (5) そのほか東アジアの文化交流に関する研究
- 3 本論文集は、日韓同時出版とし、韓国語版は『韓日文化財論集Ⅳ』として、大韓民国国立文化財研究所より出版されている。本書とあわせてお読みいただきたい。
- 4 韓国語論文の翻訳にあたっては、原文に忠実に訳すことを心がけたが、一部意訳したところがある。誤解および誤訳があれば編集者の責に帰すものである。
- 5 本書に使用した写真・図面の掲載にあたり、以下の関係各機関よりご高配を得た。
大韓民国国立文化財研究所、国立慶州文化財研究所、国立慶州博物館、宮内庁正倉院事務所、東京大学総合研究博物館、建仁寺両足院・大中院・正伝永源院、唐津市教育委員会、法隆寺、公益財団法人日本民藝館（順不同・敬称略）
- 6 本書の編集は都城発掘調査部が担当し、清野孝之の指導のもと、林正憲・松永悦枝がおこない、翻訳には岩戸晶子・小田裕樹、英文要旨の作成には庄田慎矢（文化遺産部国際遺跡研究室長）・Shaun Mackey氏（文化遺産部客員研究員）の助力を得た。